

2023(令和5)年1月11日 報道発表資料
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



イラストレーション：カナイフユキ

松田正隆書き下ろしによる劇場レパートリー作品の連続上演！

「海辺の町」を舞台とする二つの物語を、同じ場所、同じ俳優たちで上演する

ロームシアター京都 レパートリーの創造

松田正隆 海辺の町 二部作

「文化センターの危機」〈新作〉

「シーサイドタウン」〈再演〉

作・演出：松田正隆

2023年2月22日(水)～26日(日)

ロームシアター京都 ノースホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当：松本、山形

電話：075-771-6051(10:00～17:00) FAX:075-746-3366

E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

■企画趣旨

ロームシアター京都では、劇作家・演出家の松田正隆による“海辺の町”二部作として、2021年1月に初演された「シーサイドタウン」と新作「文化センターの危機」、いずれもロームシアター京都の「レパートリーの創造」から生まれた劇場プロデュースの二作品を連続上演します。

松田は長らく京都で活動した後に拠点を東京へと移し、自身が主宰するマレビトの会での作品創作などを通して、演劇の上演についての様々な試みを続けてきました。

また2022年11月には、1999年読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞した代表作のひとつ『夏の砂の上』を演出家・栗山民也氏が演出。早川書房から戯曲集「松田正隆 1: 夏の砂の上/坂の上の家/蝶のやうな私の郷愁 (ハヤカワ演劇文庫 52)」が発売されるなど、**昨今改めて松田作品の戯曲の力に熱い注目が集まっています。**

2021年1月にロームシアター京都で初演された「シーサイドタウン」は、自身の故郷・長崎を思わせる「海辺の町」に生きる人々を描きつつ、物語を演劇として上演することの本質を考える取り組みでもありました。

ロームシアター京都の「レパートリーの創造」シリーズは、劇場で作品を創り、劇場で上演を行います。「シーサイドタウン」は、ロームシアター京都ノースホールで長期間の創作過程を過ごし、その場所で上演されました。**リハーサルを通して俳優たちがノースホールに“住み成す”プロセスと、彼らが演じる劇世界の中の「海辺の町」の住人たちの“暮らし、の風景が、現実世界と劇世界のあいだで、多層的に折り重なり、わたしたちの目の前に立ち上がってくるものでした。**

「シーサイドタウン」の続編ともいえる「文化センターの危機」は、「シーサイドタウン」に初演から出演する俳優6名に、新たにオーディションで選ばれた俳優1名を加えて演じられます。「海辺の町」を舞台とする二つの物語が、**同じ場所で、同じ俳優たちによって演じられます。**ぜひ両方の上演をご覧いただき、それぞれの物語をお楽しみいただくとともに、演劇をめぐる問いかけにも触れてください。



「シーサイドタウン」 Photo: Toshiaki Nakatani

■ あらすじ

「文化センターの危機」

文化センターの職員である吉村、辻井、中野の三人は不安な日々を送っていた。来年度から運営が民間に移行するのにともない、職員が解雇されると告げられていたからだ。そんな時、中野の大学時代の友人がイベントの下見で文化センターを訪れる。週末をキャンプで過ごすために職員たちは山に行き、焚き火をする。一方、コンビニでバイトをしている高校生の里岡は美術部顧問の教師、神長から、土曜の夜に流星群が見えると教えられ、心をときめかせる。港の岸壁では、密航者を監視する男が佇んでいる。冬の海辺の地方都市、その週末、三日間のスケッチ。

「シーサイドタウン」

この国の西の果て、海辺の町。一軒の空き家に一人の男（シンジ）が住みはじめる。シンジは東京で職をなくし行き場を失い、故郷に帰ってきた。荒廃していく地方の町では凡庸なるファシズムが横行し、シンジは戸惑いながらもその流れに馴染んでゆく。相変わらず地縁・血縁のしがらみも絡みつく。日々の生活の中で「何かの兆し」は常に現れ、起こるべくして起こった事件がシンジのもとに報告される。

「シーサイドタウン」初演：2021年1月27日（水）～31日（日）計6回上演
会場：ロームシアター京都 ノースホール

■ 関連テキスト（ロームシアター京都 WEB マガジン「Spin-Off」掲載）

○海辺の町 二部作 松田正隆インタビュー

https://rohmtheatrekkyoto.jp/archives/interview_matsuda_2022/

○関連コラム「シーサイドタウン」に住むこと | 文：松田正隆

<https://rohmtheatrekkyoto.jp/archives/living-sea-side-town/>

■ プロフィール

松田 正隆（まつだ まさたか）

劇作家・演出家・マレビトの会代表

1962年、長崎県生まれ。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、99年『夏の砂の上』で読売文学賞を受賞。2003年「マレビトの会」を結成。主な作品にフェスティバル・トーキョー2018参加作品『福島を上演する』など。2012年より立教大学現代心理学部映像身体学科教授。

2021年1月「シーサイドタウン」をロームシアター京都で初演し、10年ぶりに自身の演出作品を京都で上演する。また、ロームシアター京都「劇場の学校プロジェクト」では、2019年度から2021年度まで講師を務めた。



【出演者プロフィール】

生実 慧 (いくざね さとし)

1986年、石川県生まれ。

近年、出演・参加した作品に、マレビトの会『福島を上演する』(2016-2018)、ワウフラミンゴ『くも行き』(2019)、ダダルズ『QPQの地点』(2022)などがある。

鈴鹿 通儀 (すずか みちよし)

中学高校時代に日本ハムファイターズの私設応援団員として全国の球場を飛び回るなどしていたら、大学受験に失敗。2年間に渡るプー太郎生活を過ごしたのち日本大学芸術学部演劇学科に進学。卒業後活動を本格化し、中野成樹+フランケンズ、ままごと、劇団子供鉦人、ピンク・リバティ、財団、江本純子、スペースノットブランク、フェスティバル/トーキョー、京都国際舞台芸術祭など舞台を中心に出演。

3月にサンプル・松井周の標本室『標本の湯』(元映画館)《監修》、4月にゆうめい『ハートランド』(東京芸術劇場 シアターイースト)《出演》を控える。

大門 果央 (だいもん かお)

京都府出身、大学生。

シーサイドタウンが初出演作です。

2回目ですが頑張ります。

田辺 泰信 (たなべ やすのぶ)

1997年-2001年劇団維新派に所属。国内及び海外公演に参加した後、作業療法士免許取得のため活動休止。2013年頃より映像分野を中心に活動を再開。主な出演作は濱口竜介監督「ハッピーアワー」、いまおかしんじ監督「れいこいるか」、野原位監督「三度目の、正直」、NHK土曜ドラマ「心の傷を癒すということ」、今年1月放送の「探偵ロマンス」がある。近年の舞台参加は第19回AAF戯曲賞公演「ねー」、akakilike「捌く-Sabaku」(東京芸術祭2022)など。

中川 友香 (なかがわ ゆか)

1999年、松本生まれ。俳優。主な出演作に、関田育子「浜梨」、新聞家「弁え」、オル太「ニッポン・イデオロギー(仮)」、篠崎誠監督『きみの面影をいまだ夢みる』『ひかりのなかでよむ』。2022年、俳優2人組のユニット「再演企画」を始動し「ここから発つ」を上演。



[左から：横田、生実、中川、大門、鈴鹿、田辺、深澤]

深澤 しほ (ふかさわ しほ)

演劇カンパニーノミックにて、俳優・スタッフとして活動。近年の主な舞台出演作に、福名理穂作・演出『柔らかく揺れる』(第66回岸田國士戯曲賞受賞)、映画出演作に、杉田協士監督作『春原さんのうた』(第32回マルセイユ国際映画祭インターナショナル・コンペティション部門にてグランプリ他多数受賞)などがある。

横田 僚平 (よこた りょうへい)

オフィスマウンテンのメンバー(主宰 山縣太一)、2016年「ドッグマンノーライフ」で初参加、数年後入る。他に犬飼勝哉、円盤に乗る派、グループ野原、サンプル、七里圭、新聞家、ダダルズ、玉城大祐、ロランコロンなどの作品に参加。今年6~7月にこまばアゴラ劇場でオフィスマウンテン「ホールドミーおよしお」に出演。

【演出助手】

福井 裕孝 (ふくい ひろたか)

1996年京都生まれ。演出家。2017年にマレビトの会『福島を上演する』に演出部として参加。2018年から個人名義での作品の発表を始める。近作に『インテリア』(2020)、『デスクトップ・シアター』(2021)、『シアターマテリアル』(2020,2022)など。下北ウェーブ2019選出。ロームシアター京都×京都芸術センターU35創造支援プログラム“KIPPU”選出。2022年度より THEATRE E9 KYOTO アソシエイトアーティスト。

■創作過程のアーカイブ／公開の取り組み

ロームシアター京都の「レパトリーの創造」では、創作過程をいかに記録するかというアーカイブの視点を持ちながら作品製作に取り組んでおり、作品ごとに異なる方法で記録を残しています。

2020年度のレパトリー作品「シーサイドタウン」の創作過程では、演出家・映像作家の村川拓也ディレクションによる稽古場記録映像を制作し、2021年6月5日に開催した「『シーサイドタウン』を振り返る」で上映を行いました。

松田正隆による「海辺の町 二部作」として「シーサイドタウン」の再演と新作「文化センターの危機」の上演を行う2022年度は、両作品で演出助手を務める演出家の福井裕孝が、自身の視点も織り交ぜながら、稽古場での日々の記録を書き留めていきます。

○演出助手・福井裕孝による稽古場の日々の記録は、ロームシアター京都 WEB マガジン「Spin-Off」(<https://rohmtheatrekkyoto.jp/spin-off/>)に随時掲載予定

○村川拓也ディレクションによる「シーサイドタウン」初演稽古場記録映像上映&トーク

日時：1月26日(日)13時から

会場：ロームシアター京都 ノースホール

村川拓也と福井裕孝によるトークも開催します。

※入場無料

○中高生や若手演劇人による稽古見学

ロームシアター京都が2019年度から実施している中高生対象プログラム「劇場の学校」受講生や、京都で演劇活動を行う大学生に稽古の見学を呼びかけ、プロの創作現場に触れる機会を提供しています。

■公演情報

ロームシアター京都 レポートリーの創造 松田正隆 海辺の町 二部作
「文化センターの危機」(新作) / 「シーサイドタウン」(再演)

作・演出：松田正隆

出演：生実慧、鈴鹿通儀、大門果央、田辺泰信、中川友香（「文化センターの危機」のみ）、深澤しほ、横田僚平

演出助手・稽古場記録：福井裕孝

日時：2023年2月22日（水）～26日（日）

	22日（水）	23日（木祝）	24日（金）	25日（土）	26日（日）
13:00					上映会
14:00		文化センター ☆		シーサイド ☆	
16:00					文化センター ☆
18:30				文化センター ★	
19:00	文化センター	シーサイド ☆	シーサイド		

★の回は終演後にアフタートークを行います。

☆の回は託児サービスがあります。詳細はロームシアター京都までお問合せください。

会場：ロームシアター京都 ノースホール

上演時間（両作品）：1時間45分（予定）

チケット（発売中）：

全席自由

一般 3,500円、ユース（25歳以下）2,000円、18歳以下 1,000円

2公演セット券：一般 6,000円、ユース（25歳以下）3,500円、18歳以下 1,500円

※推奨年齢中学生以上。未就学児入場不可。

※ユース（25歳以下）、高校生以下のチケットの方は、公演当日に年齢が確認できる証明書をお持ちください。

取扱：

■オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録（無料）<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

■ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL.075-746-3201（窓口・電話とも10:00～19:00／年中無休 ※臨時休館日を除く）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため短縮営業する場合あり

■ 京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231
(窓口・電話とも 10:00~17:00/第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日)
※チケットぴあでも取扱いあり

問合せ先：ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

協賛：京都信用金庫

令和4年度文化資源活用推進事業

後援：京都新聞